

令和6年度 学校図書館活用計画・評価シート

白地部分：計画策定時記入（年度当初）

水色部分：評価時記入（年度末）

足立区立青井小学校 校長 鯉沼 哲

1 学校教育目標

豊かな心・感性・知性・体力を身につけ、世界に羽ばたく青井の子供の育成
 ○よく考える子 ○思いやりのある子 ○たくましい子

2 現状の学校図書館の課題

- ① 図書館が3階の端にあり、教室から遠い場所にある。
- ② 図書館の割り当て時間が決まっているため、使いたいときに使えないことがある。
- ③ 本好きの児童は多いが、読みの深まりや広がりには欠ける。

3 今年度の学校図書館の目標

- ① 児童の読書に対する意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。
- ② 多様な資料から目的に応じた情報を選んで課題解決する能力を伸ばす。
- ③ 様々な取り組みを通して本の楽しさに触れ、日常的に本に親しむ態度を育てる。
- ④ 学校図書館及び校内の図書に関わる環境を整え、児童の読書に対する意欲を高める。

4 今年度の重点取組

- ① いろいろな読み物に興味をもち、幅広く読書しようとする意欲を育てる。
- ② きまりを守り、進んで学校図書館を利用しようとする態度を養い、資料や情報を集めて活用できる力を育てる。

5 教科等における年間指導計画（対象学年は○数字で記載）

教科	内容（学校図書館を活用して取り組む単元等）
国語	①じどう車くらべ・じどう車ずかんを作ろう ②生き物クイズで知らせよう ③図書館たんていだん ④「リーフレットでほうこく」 ⑤作家で広げるわたしたちの読書『モモ』 ⑥みんなで作ろうパンフレット
生活	①なかよくなろうね ちいさなともだち ②作ってためして
社会	④自然災害からくらしを守る ⑥戦争とその当時のくらしについて調べよう
理科	③こん虫のかんさつ ⑤わたしの研究
総合	⑤鋸南徹底研究 ⑥日光について調べよう

実践の評価

①「うみのかくれんぼ」で学校図書館の本で擬態する生き物を調べた経験を生かして、「じどう車くらべ・じどう車ずかんを作ろう」で図鑑にまとめることができた。②「生き物クイズで知らせよう」では、調べたことをもとに生き物クイズを作り、模造紙にまとめたり、放送でクイズ流したりする活動を行った。また、生き物について調べたことを学習発表会での劇につなげることができた。③「図書館たんていだん」で、学校図書館の本について学習し、国語の物語文の学習では、並行読書を行うことで読みを深めることができた。「すがたをかえる大豆」では、本文に書いてあることの他にも学校図書館の本を使って、大豆食品や加工食品について調べた。④「リーフレットでほうこく」では、それぞれ調べたいテーマを決め、学校図書館オリエンテーションで学んだ本の探し方で、リーフレットにまとめることができた。総合では、SDGsについて調べ学習を行った。⑤学校図書館の本とインターネットから並行して調べたことを、スライドやドキュメント、模造紙などにまとめて発表する活動を、複数の教科や単元で実施した。⑥「戦争と当時のくらしについて調べよう」では、当時の武具や道具などについて様々な書籍の文、絵などから情報を収集し、学習発表会の劇の道具作りにも生かすことができた。

6 図書館運営計画

(1) 日常的な取り組み

- ① 読書時間の確保（週1回、朝読書） ② 個人で読む本は図書館から借りる

(2) 主な行事の取り組み

- ① 読書月間年3回 ②朝の読み語り（図書ボランティア）③大お話会（図書ボランティア）

(3) 図書委員会などの取り組み

- ① 来館スタンプ ② 読書クイズ ③読み語り ④読書スタンプラリー

(4) 環境整備の取り組み

- ① 請求記号を3桁に統一し、分類の理解を深める。
② 電算化更新等に適切に対処できるようにする。

(5) 司書・外部との連携

- ① 展示（支援員）や掲示（図書ボランティア）を工夫し、図書館の環境整備を心がける。
② 授業担当者・支援員との共通理解を図る機会を確保し、資料の準備をより充実させる。

実践の評価

- ・各教科における資料収集の依頼や蔵書点検、購入図書や廃棄図書の相談等、学校図書館支援員と校内の図書館担当を中心に連携を取りながら、学校図書館の運営を行うことができた。
- ・図書委員会の児童と共に読書月間の設定や読書スタンプラリーの取り組みを行うことで、本に触れる機会を増やすことができた。
- ・図書館支援員や図書ボランティアの方と協力して、季節や学校活動に関わる本の特集コーナーの設置や展示などを作り、児童の読書への興味関心を高める工夫をすることができた。
- ・図書館の蔵書については、国基準に達していない分類を中心に、児童や教職員の希望をもとに選書リストを作成し新規図書購入計画を作成することができた。校内の蔵書を整理し、廃棄図書の選定を行った。
- ・国語科の教科書に掲載されている本を集めたコーナーを整備・更新し、授業で活用できるようにした。

7	学校図書館利活用に関する成果目標	達成基準	達成状況
①	児童の読書に対する意欲を高め、豊かな心情と幅広い知識を身に付けさせる。	児童の年間平均貸出冊数：40冊	平均貸出冊数 40冊を達成することができた。
②	年間の指導計画に合わせ、多様な資料から目的に応じた情報を選んで課題解決する能力を伸ばす。	授業で図書や資料を活用した担任・専科教員の割合：60%	100%の担任が図書や資料を活用した。
③	学校図書館の利用の仕方やきまりを守りながら、読書を行うことができる。	学校図書館オリエンテーションの学級実施率100%	オリエンテーションの学級実施率100%達成した。

8 学校図書館全体に関する自己評価

- ・読書スタンプラリーなどの読書活動を積極的に行ったりしたことで、低・中学年を中心に貸し出し冊数や読書への意欲が増加し、さまざまな本に触れる機会をつくることができた。しかしながら、高学年児童の来館、貸し出し数は少なく、学校図書館の本や長い文章を読むことへの抵抗感を感じている児童も見受けられる。次年度は、高学年を中心とした読書活動の取組を新たに実施すると共に、授業内でのさまざまな読書指導の方法を教員に示し、指導の改善を図っていくことが必要である。
- ・蔵書の分類の冊数に偏りがあるため、来年度も引き続き国基準に達していない分類を中心に購入を進めていく。また、机・椅子・書架の修繕・更新などの館内整備も行っていく。